

Global Mix

グローバルミックスの現況

特別勘定(変額保険用) 月次運用報告書(2007年7月)

日ごろは格別のお引き立てを頂き、誠に有り難く御礼申し上げます。
2007年7月における特別勘定(変額保険用)の運用状況をご報告致します。
なお、毎月の運用状況は、弊社ホームページにおいてもご覧いただけます。

ホームページアドレス

<http://www.axa.co.jp/life/>

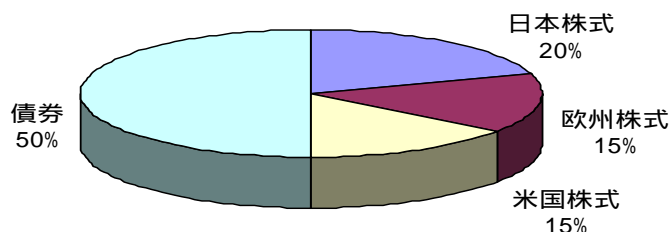
特別勘定の運用方針

日本国債をはじめとする債券及び日本・米国・欧州の株式に分散投資することにより、中長期での資産の安定的な成長を目指します。為替リスクは、原則として、フルヘッジします。基本的な資産配分は、株式50%程度、債券50%程度とします。特別勘定の運用は、各投資信託(ファンド)の買付けを含め、アクサ生命保険株式会社プロダクト部が行います。特別勘定の運用においては、アクサ・グループの運用会社(運用協力会社)の運用するファンドを買付けます。運用協力会社およびファンドは、今後予告なく変更される可能性があります。変更については、随時お知らせいたします。各ファンドの資産配分比率は、金融情勢、経済動向などにより変更することがあります。

目次

特別勘定の運用方針	1
運用協力会社のご紹介	1
運用環境について	2
特別勘定の資産内容について	3
各ファンドについて	4-6
注意事項	6
契約月別の運用実績の例	7-9

(グローバルミックスの資産配分比率)



* 上記は設定当初の資産配分比率です。
* 資産配分比率は、将来的には変更されることがあります。

運用協力会社(ファンドの運用会社)のご紹介

アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社

アクサ・ローゼンバーグは、グローバルに業務を展開するアクサ・ローゼンバーグ・グループの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づくアクティブ運用を行っています。

1987年の日本進出以来、日本株式の運用業務と内外の株式運用商品のご提供を行ってまいりました。

現在では、株式、債券、オルタナティブ投資商品まで幅広くお客様のニーズにお応えした高品質な運用商品をご提供しています。

- ・当該資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・また、予告なしに当該資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・当該資料は、当社の変額保険の運用状況などを開示するためのものであり、生命保険契約の勧誘を目的としたものではありません。
- ・当該資料の運用実績に関する内容は過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・当該資料に記載されている各表にある金額、比率等はそれぞれの項目を四捨五入等をしてしていますので、合計等と合致しないことがあります。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777 (代表)
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

運用環境について(2007年7月)

〔日本株式市場〕

堅調な経済と好調な企業業績を背景に月初に日本株式市場は堅調に上昇しましたが、その後は一進一退の展開となりました。しかし、月末にかけて米国サブプライムローン(信用度の低い融資)問題が市場の関心を集め世界的に株式市場が下落、日経平均で 4.90%、TOPIXで 3.87%の下げとなりました。

7月29日の参議院選挙では与党自民党が歴史的敗北を喫し、今後の政局運営、金融政策の不透明感が増しましたが株式、為替市場の反応は限定的でした。一方月末にかけ世界的な株価下落に伴いリスクポジション縮小の動きが起こり、円キャリーポジションのまき戻しと思われる円買いの動きが目立ちました。スタイル別ではNRI Total Market Indexベースでグロースがバリューを30bp上回り過去4ヶ月続けてグロース優位の相場となっています。

業種別では、石油・石炭製品(+8.3%)、輸送用機器(+5.9%)など円安・原油高の恩恵を受ける業種が上昇しました。一方、金利上昇懸念から不動産業(9.3%)、その他金融業(4.1%)、電力・ガス業(3.4%)など金利敏感業種は振るいませんでした。

需給面では売りの主体は信託と個人投資家で、買いの主体は外国人投資家でしたが、信託の売りが特に目立ちました。背景は日本の郵便貯金、簡易保険などの機関による売りとの観測が出ています。

〔米国株式市場〕

当月の米国株式市場は、月半ばまでは堅調に推移しましたが、月末にかけて信用力の低い消費者向けのサブプライムローン(信用度の低い融資)問題への懸念が急速に増大したことで大幅な下落となりました。主要株価指数の騰落率は、S&P500種株価指数は 3.20%、ダウ平均株価は 1.47%、ナスダック指数は 2.19%となりました(いずれも現地通貨ベース)。

当月は、月初においては予想を上回る好調な個別企業決算や活発なM&Aがらみのニュースに好感して上昇を続けましたが、月末に発表された大手住宅ローン会社の決算発表において、住宅ローンの返済遅延が増大していることが明らかになると、市場心理は大きく冷え込み米国株式市場は急落しました。

業種的には、住宅ローン関連の銘柄を中心に金融株が大きく下落しました。他には建設資材、石油サービス、自動車も振るいませんでした。一方、航空機、空運、防衛関連は好調でした。

〔欧州株式市場〕

当月の欧州株式市場は世界的な信用リスクの高まりを意識した不安定な展開となりました。主要株価指数の騰落率は、MSCI欧州株価指数は 3.55%、FT100指数は 3.75%、仏CAC指数は 5.02%、独DAX指数は 5.28%となりました(いずれも現地通貨ベース)。

当月の欧州株式市場は、月半ばまでは米国株高やM&Aによる業界再編期待の広がりなどの好材料と、金利先高観やユーロ高といった悪材料の綱引きとなり、高値圏でもみ合いました。月後半には、7月ドイツZEW景気期待指数が前月比+10.4と予想を大分下回ったことや、バーナンキFRB議長が住宅市況の悪化を理由に経済見通しを下方修正したことから欧州株式市場は反落しました。さらに米国のサブプライムローン(信用度の低い融資)に端を発した信用不安と流動性の低下が懸念され、欧州株式市場は大幅な調整局面を迎えました。

業種別では、石油、金属、事務機器が好調で、コンピュータ、バイオテクノロジー、航空機が振るいませんでした。

〔国内債券市場〕

当月の国内債券市場は、狭いレンジながらも、月前半は国内株式市場の堅調さや海外債券市場の金利上昇を受けて、金利上昇基調となりました。しかし、月後半は、「質への逃避」から金利低下となりました。

月初発表の日銀短観は総じて予想通りで、強含むことはなかったものの、国内株式市場が堅調な動きとなっていたことや、米国等主要国の長期金利が上昇基調となったことを受けて、10年国債利回りは1.96%水準まで上昇する展開となりました。しかしその後、米格付け会社が米国の信用力の低い個人向け住宅融資であるサブプライムローン(信用度の低い融資)を担保にした住宅ローン担保証券の格下げの可能性を発表したことにより、サブプライムローン問題が再燃しました。この問題が、リスク回避的な動き「質への逃避」につながり、世界的に株安、債券高の動きとなりました。したがって、国内債券市場もこの動きに連動する形で、買い優勢となり、1.90%を割り込むこととなりました。

月後半になっても、サブプライムローン担保証券を組み入れたファンドの損失のニュースが出る等、この問題の注目度は高く、リスク回避的な動き、いわゆる「質への逃避」が継続し、内外の金利低下を促す結果となりました。したがって、国内長期金利もこの流れに伴い、月末には1.80%水準まで低下する動きとなりました。7月の金融政策決定会合にて金融政策が維持されたことは、ほぼ予想通りであったことから、大きな材料にはなりません。

(参考指標)

		2007年6月末	2007年7月末	変化率
日本	TOPIX(東証株価指数)	1774.88 ポイント	1706.18 ポイント	-3.87%
	日経平均	18138.36 円	17248.89 円	-4.90%
	新発10年国債	1.865 %	1.790 %	0.075 低下
米国	NYダウ	13408.62 ドル	13211.99 ドル	-1.47%
	S&P500	1503.35 ポイント	1455.27 ポイント	-3.20%
	NASDAQ	2603.23 ポイント	2546.27 ポイント	-2.19%
	10年国債	5.024 %	4.739 %	0.285 低下
欧州	FT100	6607.90 ポイント	6360.10 ポイント	-3.75%
	CAC40	6054.93 ポイント	5751.08 ポイント	-5.02%
	DAX	8007.32 ポイント	7584.14 ポイント	-5.28%
	独10年国債	4.574 %	4.347 %	0.227 低下
為替	米ドル/円レート	123.26 円	118.94 円	-3.50%円高
	ユーロ/円レート	165.64 円	163.08 円	-1.55%円高

* 各国10年国債は、ジェネリック日本指標国債10年単利(日本)、ジェネリック米国国債10年(米国)、ドイツ国債10年の利回り(欧州)を表示しております。

* 為替は、株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場中値を採用しております。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777(代表)
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

特別勘定の資産内容について(2007年7月)

【特別勘定のINDEXの推移】

「特別勘定のINDEX」とは、弊社が変額保険「Global Mix」に係る資産の管理・運用を行っている特別勘定の資産運用状況を表す指数をいいます。この数値は毎日増減し、ご契約の積立金の金額もこれにともない増減いたします。



日付	INDEX
2006/8/31	0.971
2006/9/30	0.971
2006/10/31	0.976
2006/11/30	0.977
2006/12/31	0.997
2007/1/31	1.007
2007/2/28	1.009
2007/3/31	1.009
2007/4/30	1.017
2007/5/31	1.027
2007/6/30	1.024
2007/7/31	1.007

【騰落率】

過去1ヶ月	過去6ヶ月	過去1年	過去2年	過去3年	設定来
-1.70%	-0.03%	5.78%	12.98%	21.69%	0.68%

注) 設定日である2000年8月1日を1.00としたパフォーマンスを示しています。

注) 騰落率とは、一定期間における運用実績の変動率のことです。

注) 上記の数値は過去の運用実績であり、将来の結果をお約束するものではありません。

注) この運用実績は、ご契約者の支払われた保険料から死亡保障額等に当てられるものを控除した部分の伸び率です。

【特別勘定資産の内訳】

項目	金額 (千円)	構成比 (%)
預貯金・コールローン	770,584	2.0
日本株式型投資信託 (アクサR)	3,691,260	9.6
日本株式型投資信託 (アクサR)	5,539,047	14.5
米国株式型投資信託(アクサR)	5,670,529	14.8
欧州株式型投資信託(アクサR)	3,614,589	9.4
日本債券型投資信託(アクサR)	18,577,348	48.4
その他	509,016	1.3
特別勘定合計	38,372,376	100.0

注) 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第2位を四捨五入しておりますが、合計値に対する調整は行っていません。

【保有契約高】

項目	件数 (件)	金額 (千円)
有期型	1,152	2,675,047
終身型	58,659	320,326,025
合計	59,811	323,001,073

注) 金額の単位未満は切り捨てとしました。

【特別勘定の解説】

当特別勘定は原則として、50%を安全資産での運用にしております。

積極的な運用を目指す株式部分は、当面日本株で全体の25%、欧米株式で25%の資産配分といたします。

リスク分散の観点から、少数銘柄に偏ることなく、資産種類および各資産ごとの分散投資を心掛け、バランスのとれた運用を行います。

【今後の運用方針】

特別勘定の運用資産における株式と債券の組入れ比率は現行水準を継続します。また、投資対象を幅広く分散することでより安定的な運用を行ってまいります。

(アクサ生命保険株式会社 プロダクト部)



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777 (代表)
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

日本株式ファンド(運用会社:アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)

【運用方針】: わが国の証券取引所上場株式および店頭登録銘柄に投資し、信託財産の中・長期的な成長を目指します。割安でかつ成長性の高い銘柄を中心に投資することで、安定的にベンチマークを中・長期的に上回る運用成果を目指します。
「アクサ・ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) <適格機関投資家私募>」に投資します。

【ベンチマーク】: TOPIX

【運用状況】

当月は、ベンチマークであるTOPIXが 3.87%であったのに対し、当ファンドは、4.06%となり、0.19%のアンダーパフォームとなりました。当月の日本株式市場は、これまで相対的に見て株価の上昇していた銘柄が引き続き上昇する傾向を維持しましたが、当ファンドではこれらの銘柄をアンダーウェイトして保有していたことがマイナスに寄与しました。反面、オーバーウェイトしていた株価純資産利回りの高い銘柄が相対的に上昇したことにより、前述のマイナス面をほぼ打ち消しリスクインデックスではほぼ中立となりました。業種別では、+18%近く上昇した旅行・娯楽業を対ベンチマーク比アンダーウェイトしていたこと、下落した保険、移動体通信などをオーバーウェイトで保有していたことが、いずれもマイナスに寄与しました。個別銘柄では、+7.6%上昇した新日鉄や、+20.2%も上昇した大和工業をベンチマーク比オーバーウェイトしていたこと、12.8%下落したイオンをアンダーウェイトしていたことなどがプラスに寄与しました。

【今後の運用方針】

当ファンドの運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、ポートフォリオをベンチマークからの乖離が一定の範囲内に収まるよう構築することで、中・長期的な観点から安定的にベンチマークを上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社 日本株式運用チーム)



組入上位銘柄			
	銘柄	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	4.5%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.9%
3	本田技研工業	輸送用機器	2.6%
4	キヤノン	電気機器	2.3%
5	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	2.2%
6	新日本製鐵	鉄鋼	2.0%
7	野村ホールディングス	証券・商品先物	1.9%
8	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.8%
9	松下電器産業	電気機器	1.6%
10	日本電信電話	情報・通信業	1.6%
合計			23.4%
組入銘柄数			333銘柄

*上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

日本バリュー株式ファンド(運用会社:アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)

【運用方針】: わが国の証券取引所上場株式および店頭登録銘柄に投資し、信託財産の中・長期的な成長を目指します。割安でかつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用成果を目指します。
「アクサ・ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B) <適格機関投資家私募>」に投資します。

【ベンチマーク】: TOPIX

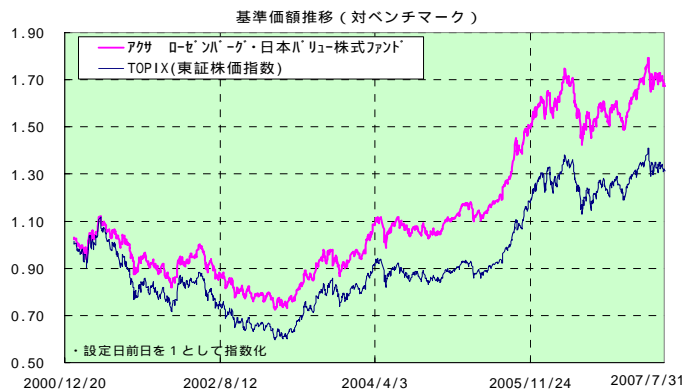
【運用状況】

当月はベンチマークであるTOPIXが 3.87%となったのに対し、当ファンドは 4.71%となり、0.84%のアンダーパフォームとなりました。当月の日本株式市場は、売買活況が高く、かつこれまで相対的に見て株価の上昇していた銘柄が引き続き上昇する傾向にあり、当ファンドではこれらの銘柄をアンダーウェイトして保有していたことがマイナスに寄与しました。業種別では、+18%近く上昇した旅行・娯楽業を対ベンチマーク比アンダーウェイトしていたこと、10.9%も下落した移動体通信業などをオーバーウェイトで保有していたことが、いずれもマイナスに寄与しました。個別銘柄では、+33%も上昇した任天堂をベンチマーク比アンダーウェイト、下落した松下電器産業をオーバーウェイトしていたことなどがマイナスに寄与しました。

【今後の運用方針】

当ファンドの運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社 日本株式運用チーム)



組入上位銘柄			
	銘柄	業種	比率
1	松下電器産業	電気機器	4.8%
2	ジェイ エフ イー ホールディングス	鉄鋼	4.1%
3	野村ホールディングス	証券・商品先物	4.1%
4	日本電信電話	情報・通信業	3.8%
5	トヨタ自動車	輸送用機器	3.6%
6	三菱重工業	機械	2.9%
7	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.6%
8	本田技研工業	輸送用機器	2.5%
9	KDDI	情報・通信業	2.3%
10	富士フイルムホールディングス	化学	2.2%
合計			32.9%
組入銘柄数			272銘柄

*上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

注)ここでは、特別勘定から買付けるファンドのパフォーマンスを評価しています。特別勘定自体のINDEXではないことにご注意ください。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777(代表)
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

欧州株式ファンド(運用会社:アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)

【運用方針】: 幅広い投資対象(欧州約3,500社が対象)を一貫した統計的手法で分析し、独自のクオンツモデルによる銘柄選択を行い且つ、リスクを限定しつつ安定的にベンチマークを上回ることを目標とします。
 「アクサ・ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A) <適格機関投資家私募>」に投資します。

【ベンチマーク】: MSCI 欧州株価指数(為替ヘッジあり)

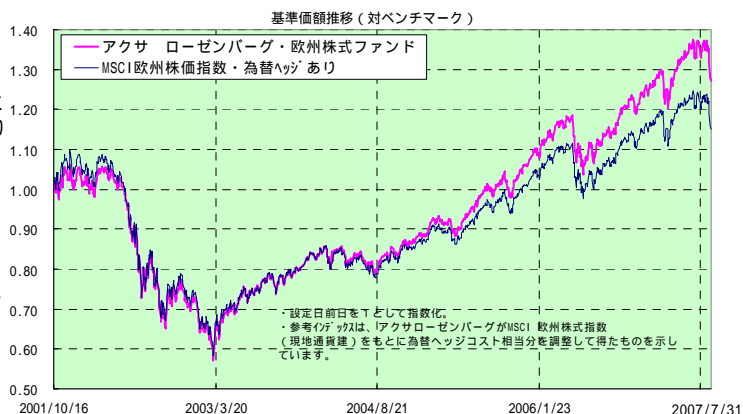
【運用状況】

当月はベンチマークであるMSCI欧州株価指数が 5.22%であったのに対し、当ファンドは 5.24%となり、0.02%のアンダーパフォームとなりました。
 当月の欧州株式市場は、株価純資産利回り、および配当利回りの高い銘柄が相対的に下落する傾向を示し、当ファンドではこれらの銘柄ベンチマーク比オーバーウェイトしていたことがマイナスに寄与しました。業種別では、上昇した自動車、金属、ソフトウェアをベンチマーク比オーバーウェイトしていたことなどがプラスに寄与しました。
 個別銘柄では、下落したBNPパリバ(BNP Paribas SA、フランス)、ボーダフォングループ(Vodafone Group、イギリス)をベンチマーク比オーバーウェイトしていたこと、+11.8%上昇したアルストーム(Alstom、フランス)をベンチマーク比アンダーウェイトしていたことなどがマイナスに寄与しました。

【今後の運用方針】

当ファンドの運用方針は、欧州企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。
 割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)



組入上位銘柄

順位	銘柄	業種	比率
1	トタル SA	エネルギー	2.4%
2	ボーダフォン・グループ PLC	電気通信サービス	2.1%
3	ロイヤル・ダッチ・シェル-PLC-A-SHS	エネルギー	2.1%
4	BP PLC	エネルギー	2.0%
5	HSBCホールディングス PLC	銀行	1.8%
6	ダイムラー・クライスラー AG-REG	自動車・自動車部品	1.6%
7	ENI SPA	エネルギー	1.6%
8	ロイヤル・ダッチ・シェル-PLC-B-SHS	エネルギー	1.5%
9	ネスレ SA-REGISTERED	食品・飲料・タバコ	1.4%
10	アングロ アメリカン PLC	素材	1.3%
合計			17.8%
組入銘柄数			314銘柄

* 上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

米国株式ファンド(運用会社:アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)

【運用方針】: 幅広い投資対象(米国約6,500社が対象)を一貫した統計的手法で分析し、独自のクオンツモデルによる銘柄選択を行い且つ、リスクを限定しつつ安定的にベンチマークを上回ることを目標とします。
 「アクサ・ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) <適格機関投資家私募>」に投資します。

【ベンチマーク】: S & P 500(為替ヘッジあり)

【運用状況】

当月はベンチマークであるS&P500種株価指数が 2.52%であったのに対し、当ファンドは 1.88%となり、+0.64%オーバーパフォームとなりました。
 当月の米国株式市場は、これまで相対的に見て株価の上昇していた銘柄が引き続き上昇する傾向を示し、当ファンドではこれらの銘柄をオーバーウェイトしていたこと、および下落した財務レバレッジの大きい銘柄をアンダーウェイトしていたことなどがプラスに寄与しました。業種別では、+9.0%上昇した航空機や+6.2%上昇した防衛関連をベンチマーク比オーバーウェイトで保有していたことがプラスに寄与しました。
 個別銘柄では、上昇したアマゾンドットコム(Amazon Com Inc)、IBM、カミンズ(Cummins Inc)をベンチマーク比オーバーウェイトしていたことなどがプラスに寄与しました。

【今後の運用方針】

当ファンドの運用方針は、米国企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。
 割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)



組入上位銘柄

順位	銘柄	業種	比率
1	エクソン・モービル	エネルギー	3.9%
2	ゼネラル・エレクトリック	資本財	2.7%
3	AT&T INC	電気通信サービス	2.6%
4	バンク・オブ・アメリカ	銀行	2.4%
5	シェブロン	エネルギー	2.0%
6	IBM	テクノロジー製品・機器	2.0%
7	ファイザー INC	医薬品・バイオテクノロジー	1.8%
8	マイクロソフト	ソフトウェア・サービス	1.6%
9	ヒューレット・パッカード	テクノロジー製品・機器	1.6%
10	アップル	テクノロジー製品・機器	1.5%
合計			22.1%
組入銘柄数			278銘柄

* 上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

注)ここでは、特別勘定から買付けるファンドのパフォーマンスを評価しています。特別勘定自体のINDEXではないことにご注意ください。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777(代表)
 編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

日本債券ファンド(運用会社: アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)

【運用方針】: 主としてわが国ならびに外国の公社債投資を行い、安定した収益の確保を目指して運用を行います。
「アクサ・ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) <適格機関投資家私募>」に投資します。

【ベンチマーク】: 日興債券パフォーマンス・インデックス中期総合

【運用状況】

当月はベンチマークが+0.49%上昇したのに対し、当ファンドは+0.50%の上昇となりました。

景気、物価情勢に大きな変化がない中で、利上げまでの時間軸は確実に短くなっているものの、利上げ前倒し論の実現性は定かではなく、足元の金利上昇に過熱感があるとの認識を持っていました。したがって、先月中旬からの小幅なデュレーション長期化を維持しました。月後半の債券堅調な動きにより、小幅ながらパフォーマンスにプラス寄与となりました。また、サブプライムローン(信用度の低い融資)問題等の影響もあり、緩やかながら社債市場の対国債利回り較差の拡大傾向が続くと判断し、金融セクターを中心に組み入れていたサムライ債の保有比率を低下させ、安定運用に努めました。したがって、これらのパフォーマンスへの影響は限定的となり、結果として、対ベンチマークで小幅にプラスのパフォーマンスとなりました。



【今後の運用方針】

日銀は、今後も金利の正常化を意識した金融政策を続けて行くものと思われます。足元の消費者物価指数はマイナスとなっており、金融引き締めを急ぐことはないとの見方が大勢を占めているものの、徐々に金融引き締め前倒し期待が高まっています。次回金融引き締めまでの時間軸が短くなる中で、米国の景気と金融市場動向に影響を受け易い状況に変化は無く、米国景気の底堅さが示されている状況では、国内債券市場の地合いが急に好転することは難しくなっているものと思われます。押し目買い需要はあると思われることから、2%を越える長期金利水準の切り上げは想定し難いものの、10年国債利回りで1.9%程度を軸に思惑により振れ幅が以前より多少大きくなることを想定して行く方針です。

(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社 日本債券運用チーム)

信託財産の構成

	組入比率	デュレーション
公社債	11.7%	0.14年
短期資産等	88.3%	0.08年
合計	100.0%	0.08年

公社債の内訳

	組入比率	デュレーション
国債	0.0%	0.00年
地方債	0.0%	0.00年
特殊・財投債	0.0%	0.00年
金融債	100.0%	0.14年
普通社債	0.0%	0.00年
コールローンその他	0.0%	0.00年
合計	100.0%	0.14年

格付別債券構成比率

格付区分	構成比率
AAA	0.0%
AA	19.6%
A	80.4%
BBB	0.0%
BB以下	0.0%
合計	100.0%

注)ここでは、特別勘定から買付けるファンドのパフォーマンスを評価しています。特別勘定自体のINDEXではないことにご注意ください。

注意事項

変額保険の仕組み

変額保険とは、保険金額が「特別勘定」の資産運用実績にもとじて変動する生命保険です。

*特別勘定とは、変額保険にかかわる資産の管理・運用を行うもので、他の保険種類にかかわる資産とは区分し、独立して管理・運用を行います。

変額保険のリスクについて

市場リスク

特別勘定の資産運用には、株価の低下や為替の変動等による投資リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる保険金額(有期型の場合、満期保険金を含む)や解約払いもし金額の合計額が、払い込まれた保険料の合計額を下回る可能性があります。なお運用実績にかかわらず、死亡・高度障害時保険金は保証されています。

信用リスク

万一、引受生命保険会社が経営破綻に陥った場合、ご契約時にお約束した給付金等の金額が削減されることがあります。その場合、生命保険契約者保護機構により、保険契約者保護の措置が図られることがありますが、この場合にも、ご契約時の給付金等の金額が削減されることがあります。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777(代表)

編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

契約月別の運用実績の例

(一時払、男性40歳加入、基本保険金額1,000万円の場合。但し、有期型の場合は、保険期間10年)

契約日	終身型		有期型		契約月別 運用実績 (%)	年複利 (%)
	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)		
平成12年 8月 1日	1,000	-284	1,000	-247	0.68	0.10
平成12年 9月 1日	1,000	-293	1,000	-256	-0.81	-0.12
平成12年 10月 1日	1,000	-267	1,000	-231	2.03	0.29
平成12年 11月 1日	1,000	-246	1,000	-210	4.34	0.63
平成12年 12月 1日	1,000	-221	1,000	-187	7.00	1.02
平成13年 1月 1日	1,000	-199	1,000	-165	9.36	1.37
平成13年 2月 1日	1,000	-212	1,000	-177	7.37	1.10
平成13年 3月 1日	1,000	-171	1,000	-138	11.95	1.77
平成13年 4月 1日	1,000	-147	1,000	-115	14.46	2.16
平成13年 5月 1日	1,000	-174	1,000	-141	10.82	1.66
平成13年 6月 1日	1,000	-165	1,000	-132	11.50	1.78
平成13年 7月 1日	1,000	-149	1,000	-116	13.05	2.04
平成13年 8月 1日	1,000	-118	1,000	-86	16.38	2.56
平成13年 9月 1日	1,000	-73	1,000	-43	21.37	3.33
平成13年 10月 1日	1,000	-18	1,000	10	27.58	4.26
平成13年 11月 1日	1,000	-35	1,000	-6	24.96	3.95
平成13年 12月 1日	1,000	-41	1,000	-12	23.81	3.84
平成14年 1月 1日	1,000	-41	1,000	-11	23.42	3.84
平成14年 2月 1日	1,000	-9	1,000	19	26.80	4.41
平成14年 3月 1日	1,000	-17	1,000	11	25.38	4.26
平成14年 4月 1日	1,000	-32	1,000	-3	23.10	3.97
平成14年 5月 1日	1,000	-24	1,000	4	23.64	4.13
平成14年 6月 1日	1,000	-26	1,000	2	22.93	4.08
平成14年 7月 1日	1,000	17	1,000	45	27.69	4.93
平成14年 8月 1日	1,000	58	1,000	86	32.12	5.73
平成14年 9月 1日	1,000	61	1,000	90	32.12	5.83
平成14年 10月 1日	1,000	96	1,000	125	35.87	6.55
平成14年 11月 1日	1,000	100	1,000	129	35.86	6.66
平成14年 12月 1日	1,000	85	1,000	114	33.50	6.39
平成15年 1月 1日	1,000	118	1,000	147	37.00	7.11
平成15年 2月 1日	1,000	149	1,000	179	40.27	7.81
平成15年 3月 1日	1,000	158	1,000	188	40.82	8.06



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777 (大代表)

編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

契約日	終身型		有期型		契約月別 運用実績 (%)	年複利 (%)
	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)		
平成15年 4月 1日	1,000	163	1,000	194	40.99	8.25
平成15年 5月 1日	1,000	145	1,000	175	38.12	7.89
平成15年 6月 1日	1,000	129	1,000	159	35.75	7.61
平成15年 7月 1日	1,000	110	1,000	139	32.89	7.21
平成15年 8月 1日	1,000	100	1,000	129	31.20	7.03
平成15年 9月 1日	1,000	92	1,000	120	29.75	6.88
平成15年 10月 1日	1,000	91	1,000	119	29.17	6.91
平成15年 11月 1日	1,000	80	1,000	108	27.41	6.67
平成15年 12月 1日	1,000	85	1,000	114	27.61	6.88
平成16年 1月 1日	1,000	75	1,000	103	25.89	6.64
平成16年 2月 1日	1,000	63	1,000	91	24.09	6.36
平成16年 3月 1日	1,000	52	1,000	80	22.34	6.08
平成16年 4月 1日	1,000	39	1,000	66	20.38	5.72
平成16年 5月 1日	1,000	42	1,000	70	20.33	5.86
平成16年 6月 1日	1,000	55	1,000	83	21.38	6.31
平成16年 7月 1日	1,000	45	1,000	72	19.74	6.02
平成16年 8月 1日	1,000	66	1,000	94	21.69	6.76
平成16年 9月 1日	1,000	68	1,000	96	21.45	6.89
平成16年 10月 1日	1,000	70	1,000	98	21.25	7.04
平成16年 11月 1日	1,000	76	1,000	104	21.52	7.34
平成16年 12月 1日	1,000	66	1,000	94	19.92	7.05
平成17年 1月 1日	1,000	52	1,000	80	17.92	6.59
平成17年 2月 1日	1,000	55	1,000	82	17.79	6.77
平成17年 3月 1日	1,000	42	1,000	69	15.94	6.31
平成17年 4月 1日	1,000	44	1,000	71	15.73	6.46
平成17年 5月 1日	1,000	64	1,000	92	17.49	7.43
平成17年 6月 1日	1,000	55	1,000	82	16.06	7.12
平成17年 7月 1日	1,000	44	1,000	71	14.49	6.71
平成17年 8月 1日	1,000	34	1,000	61	12.98	6.29
平成17年 9月 1日	1,000	30	1,000	57	12.14	6.16
平成17年 10月 1日	1,000	0	1,000	26	8.40	4.50
平成17年 11月 1日	1,000	9	1,000	35	9.00	5.05
平成17年 12月 1日	1,000	-13	1,000	-13	6.18	3.66
平成18年 1月 1日	1,000	-27	1,000	-27	4.27	2.68
平成18年 2月 1日	1,000	-37	1,000	-37	2.82	1.87



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777 (大代表)

編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

契約日	終身型		有期型		契約月別 運用実績 (%)	年複利 (%)
	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)		
平成18年 3月 1日	1,000	-29	1,000	-29	3.36	2.36
平成18年 4月 1日	1,000	-34	1,000	-34	2.43	1.82
平成18年 5月 1日	1,000	-28	1,000	-28	2.64	2.11
平成18年 6月 1日	1,000	8	1,000	8	6.16	5.26
平成18年 7月 1日	1,000	8	1,000	8	5.80	5.35
平成18年 8月 1日	1,000	12	1,000	12	5.78	5.78

注(1) 保険金額は、基本保険金額に変動保険金額を加えた保障額を示したものです。ただし、変動保険金額が負値の場合、保険金額は基本保険金額を表示しています。

- (2) 契約月別運用実績は、契約時点に特別勘定に投入した金額の平成19年7月末までの運用実績を示したものです。
 なお、この運用実績は、ご契約者の支払われた保険料から死亡保障額等に当てられたものを控除した部分の伸び率です。
- (3) 年複利は、契約月別運用実績を年複利換算したものです。

